

## 教職員の時間外在校等時間縮減に効果の高い学校の取組状況調査表

市町村名・学校名	つくば市・竹園西小学校
----------	-------------

## 1 時間外在校等時間の状況（教職員の平均値）

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
小学校	26:25	31:42	52:04	31:30	27:32	32:44	23:52
中学校							

## 2 学校が主体的に実施する効果が高い取組の概要

## 【学校業務の削減・縮減に関する取組】

- 日課の見直し
  - ・5時間授業の際は14:30、6時間授業の際は15:20下校とし、放課後の事務作業時間を確保している。
- 5時間授業日の設定
  - ・夏休み前、学期末、学年末にそれぞれ3日間程度5時間授業の日を設定している。（年間7時間）
- 保護者や地域への発信
  - ・学校便りにて学校における働き方改革を周知している。また、学校の自動応答サービス（18:00～7:30）についても紹介している。
- ねらいを明確にした行事の精選と縮減
  - ・行事のねらいを再確認し、その達成のためにキャップ・カットを適宜実施している。  
（例：運動会を、竹園体育DAYとして、平日午前中の日程で、体育授業の成果発表に改善し準備・練習時間を大幅に削減できた。）

## 【教職員の意識改革に関する取組】

- 働き方改革全体の流れを把握できるような工夫
  - ・国や県、市などの働き方改革に関する通知通達を職員室便りで紹介し、教職員が全体の流れを俯瞰できるようにしている。
- 働き方改革の目的の共通理解
  - ・働き方改革の目的は何なのか、また学校業務を削減・縮減して生み出した時間を何に使うのかについての共通理解を図っている。（例として、教員評価面談時、職員会議、毎週木曜日終会時、職員室だより等を通して働き方改革について目的の共有化を図っている。）本校では、生み出した時間を教材研究の時間に充て、「先生方が自信を持って笑顔で子ども達の前に立てるようにすること」としている。
- 教職員へのアンケートの実施
  - ・働き方改革に関するアンケートを実施し、一人一人の考えを把握すると共に、働き方改革の方策をボトムアップで吸い上げ具現化している。
- 自己申告書に組み込んだ働き方改革の数値目標
  - ・H30、31年度に教職員の働き方改革の意識を高めるために、自己申告書の目標に働き方改革の項目を全員が設定し、各自が進捗状況を振り返りながら努力することができるようにした。

## 【その他時間外の原因分析・解消に関する取組】

- 月毎の勤務時間のフィードバック
  - ・月毎の勤務時間を一人一人にフィードバックして現状を把握し、翌月の目標値を設定する。
- タイムマネジメントの推進
  - ・金曜日に定時退勤するために、月曜日から木曜日までのTO DO LISTをどのように割り振るかを計画する。
- OJTのための授業研究時間の確保
  - ・新任の教員が先輩教員の授業を見て研究できるよう、空き時間を確保する工夫をし、OJTを推進する。
- 先生方の空き時間の確保
  - ・教頭、教務主任及び担任外の教員が、3年生から6年生の授業を担当することで、学級担任の空き時間を確保している。（3年：週1時間、4年：週1時間、5・6年：週4～5時間を確保している）
- 積極的な生徒指導による問題の未然防止
  - ・日頃から、生徒指導の未然防止に努めることで、ゆったりと落ち着いた環境で学校生活を送ることができる。その結果が働き方改革につながっていくと共に、一人一人の子どもが輝く「通いたい 学びたい 楽しい学校」の実現にも寄与している。